

高原の風

飯田地区人口

人 口	1,709(+6)
男 性	857(+0)
女 性	852(+6)
世帯数	807(+6)

令和 3年 9月末時点

あげたへえ～さげたへえ～



お月見



9月22日 十六夜の月

9月22日(水)に第2回飯田お宝探検隊で、無田下行政区にお邪魔して、「あげたへえさげたへえ・お月見」を行いました。コロナ禍で子どもたちが楽しむ行事やイベントが制限されている影響もあってか、予想を上回る多くの子どもたちが参加しました。元気な声で「あげたへえ～！さげたへえ～！」と各戸を尋ね、隠してあるお菓子を探したり、十六夜(いざよい)の綺麗なお月様を観察して、素敵な一晚を過ごしました。

協力していただいた無田下行政区のみなさまありがとうございました。

来年はあなたの行政区にお邪魔するかもしれません…(笑)



9月30日(木)

赤ちゃんサロン 初開催



飯田地区の0歳～1歳10か月のお子さんがある保護者の交流、育児の相談を目的に子育て交流センター、母子保健推進委員、保健士、栄養士の方々に協力をいただいて実施することが出来ました。

サロン当日はとてもかわいい赤ちゃんが大集合！公民館は幸せな雰囲気に包まれました。コロナ禍で同世代の子どもをもつ親の交流も気軽には難しいですが、こういった機会を利用いただければ幸いです。

次回開催も計画中(*^^*)



このえ緑陽中学校 生徒会

「子ども服の提供をお願いします！」

このえ緑陽中学校は、ユニクロのプロジェクトに参加し、「難民キャンプ」に送る子ども服を集めています。

提供していただける子ども服は飯田公民館に設置しているBOXに入れてください。(各地区公民館にも設置しています。)

着る服に不自由している難民キャンプの子どもたちに少しでも多くの服が届くように、みなさまのご協力をお願いします。

募集内容

期 間 : 10月いっぱいまでに
飯田公民館の回収BOXへ
サ イ ズ : 赤ちゃん～160cm

<注意点>

- ・子ども服は洗濯したものをお願いします。
- ・下着、小物類は集めません。



難民キャンプとは…

戦争、紛争、差別、迫害、災害、伝染病などによって居住区域を離れた、あるいは強制的に追われた人々が避難、居住する場所のことをいいます。

10月27日～11月9日は、第75回「読書週間」です。

恒例の秋の行事「**読書週間**」が公益社団法人読書推進運動協議会の主催で行われます。

今年の標語は「最後の頁を閉じた 違う私がいた」です。

「読書週間」が国民ひとりひとりの読書への関心と、読書習慣の確立への契機となることを願って開催されます。皆さんも「灯火親しむべし」ですね。



お月見 「十五夜」の次は「十三夜」 10月18日 (旧暦の9月13日)

日本には、**十五夜**（中秋の名月）・**十三夜**・**十日夜**（とおかんや）というお月見行事があります。秋を彩る3つのお月見ですが、今年の**十五夜**は9月21日（旧暦8月15日）でした。芋類の収穫祝いを兼ねているため「**芋名月**（いもめいげつ）」とも呼ばれます。

十五夜のお月見が中国伝来なのに対し、十三夜は日本で生まれた風習だと言われています。

十三夜は、旧暦9月13日のお月見のことで十五夜のあとに巡ってくる十三夜を指します。今年は10月18日です。栗や豆の収穫祝いでもあるため「**栗名月**」「**豆名月**」とも呼ばれています。

十日夜（とおかんや）は旧暦10月10日に行われている収穫祭のことを指します。今年は11月14日です。

3つのお月見は、風情を楽しむだけでなく、収穫と密接な関わりがあります。古来より、月と太陽は陰と陽の象徴であり、月は「お陰さま」の心に通じると考えられてきました。

収穫物は生きる糧ですから、支えてくださる物事や力添えに対し、お月見をしながら感謝をするという意味があります。

秋の美しいお月さまを鑑賞しながら、宇宙に
思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



中秋の名月〔公民館の駐車場から（R3.9.21）〕

讀書

「一度買ったら何度も読めるというのが本のすごく良いところ」と語るのは、芥川賞作家でお笑い芸人の又吉直樹氏だ。本好きとして知られる氏だが、夏目漱石の『それから』は最初、難しくて読めなかった。そこで『坊ちゃん』『吾輩は猫である』など、他の作品を読んだ後に改めて再読。すると「めちゃくちゃおもしろかった」。「本の内容は変わりませんが、人間は日々、年を取りながら変わっていきます」と氏。例えば10代で読んだ本を20代、30代で再読すると新しい発見がある。その時にしかできない読み方がある、と氏は言う。「いつ読んでも違う味がする。それが読書の大きな魅力のひとつです」（『夜を乗り越える』小学館よしもと新書）

「座右の書」というように、再読は本の味わい方の一つ。ところが近年、世代を問わず、読書量の低下が危惧される。国立青少年教育振興機構の調査によると、20代から60代で1ヶ月に読む紙の本が「0冊」と答えた人は、平成25年に28.1%だったのが、平成30年には49.8%へと増加。約半数が“1冊も本を読まない”との結果になった。

「青年よ、心に**読書**と**思索**の暇をつくれ」とは、先達の指針。
（「新聞記事」より）

紙媒体に限らず、今は電子書籍もオーディオブックもあります。多忙な時こそ、**読書**に挑戦したいものです。夜が長く涼しい秋は、静かに**読書**するにはぴったりの季節ですね。